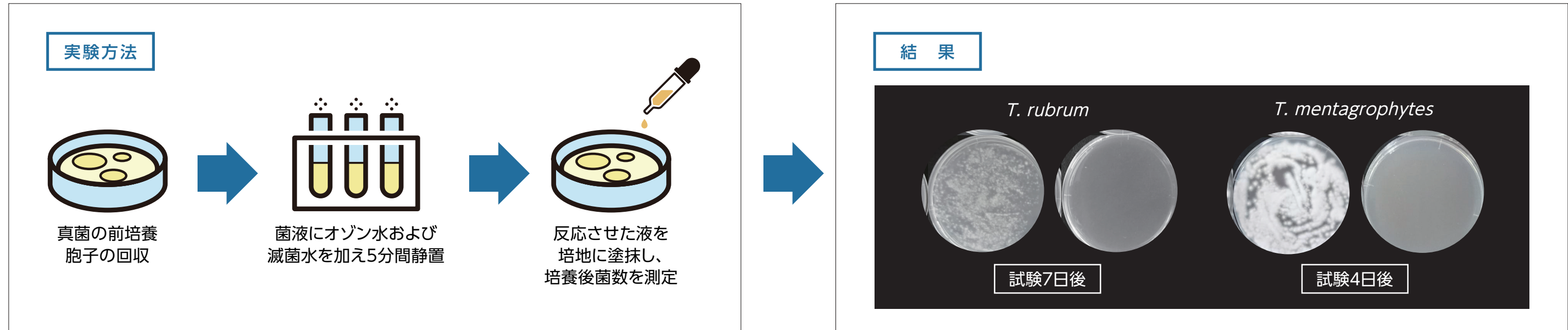


オゾン水の白癬菌に対する増殖抑制効果が九州大学と弊社による検証実験にて確認されました。

白癬菌は、ヒトの角層、毛、爪に寄生し足白癬（一般的に水虫）や体部白癬（一般的にタムシ）を起こすことが知られている。その中で最も多い病型である足白癬の主な原因菌とされる。*T. rubrum* および *T. mentagrophytes* を使用した。



白癬菌の孢子を $5 \times 10^6$  cfu/mlに調製し、菌液0.1 mlを9.9 mlのオゾン水、および滅菌水に加え一定時間反応させた。反応後、0.1 mlをサブロー寒天培地に接触させ、22～25℃で一定期間培養し、菌数を測定した。

○cfu/ml (Colony Forming Unitの略称で菌量の単位)

滅菌水処理では、いずれも旺盛な白癬菌の増殖が確認されたのに対して、オゾン水処理では、コロニーの検出はなく、白癬菌に対するオゾン水の増殖抑制効果が認められた。以上のことから、オゾン水には、白癬菌 (*T. rubrum* および *T. mentagrophyte*) の増殖を抑制する抗白癬活性が期待できる。

※ オゾン水は流水処理ではなく、静水処理で使用した。